

平成 27 年度 第 2 回 松戸市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

1. 日時	平成 28 年 3 月 28 日（月） 18 時 30 分～20 時 30 分
2. 場所	松戸市役所 新館 7 階 大会議室
3. 出席者	<p><委員>（50 音順）21 名</p> <p>秋葉委員、天田委員、石井委員、石田委員、小野委員、加藤委員、神谷委員、小泉委員、小松委員、佐藤委員、鈴木委員、竹次委員、富永委員、成瀬委員、西委員、箱田委員、平井委員、文入委員、松浦委員、山口委員、山田委員</p> <p><松戸市></p> <p>子ども部長、子ども部参事監、子育て支援課、幼児保育課、子ども家庭相談課、子どもわかもの課、障害福祉課、指導課、事務局（子ども政策課）</p>
4. 傍聴者	5 名
5. 次第	<p>1 子ども部長あいさつ</p> <p>2 松戸市子ども・子育て会議 議題</p> <p>（1）松戸市子ども総合計画の進捗について</p> <p>（2）松戸市子ども総合計画 アンケート調査について</p> <p>（3）利用定員について</p> <p>3 その他</p>

<要旨>

1 子ども部長あいさつ

資料 1：平成 28 年度 子ども部 新規・拡大事業をもとに、説明。

2 松戸市子ども・子育て会議

○西会長あいさつ

○会議の成立

（事務局）

総委員数 25 名、21 名出席（4 名欠席）。

「松戸市子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項」の規定により、会議の成立を報告。

○会議の公開

（事務局）

「松戸市情報公開条例 32 条」の規定により、公開を原則として会議を開催したい。

○議事録の作成と公開

(事務局)

要約による議事録を作成したい。

(西会長)

議事録は事前に委員の了解を得た上で公開することです承する。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

5名の方から傍聴の申し出あり。

(西会長)

入室を許可する。

(1) 松戸市子ども総合計画の進捗について

(西会長)

議題の(1)松戸市子ども総合計画の進捗について、説明をお願いしたい。

(事務局)

資料2:松戸市子ども総合計画の進捗報告をもとに、重点的取組み1「幼稚園・保育所(園)・小学校の連携」、重点的取組み3「放課後子ども総合プランの策定」、重点的取組み6「学習支援、就労支援の充実」、重点的取組み9「出産・子育てを想像できる機会の確保」、重点的取組み10「ひとり親家庭への支援の充実」、重点的取組み13「妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援体制の充実」、重点的取組み14「待機児童の解消」の部分を説明。

(西会長)

質疑応答をお願いしたい。

(神谷委員)

資料2の重点的取組み4・5の計画に、児童福祉館機能の整備1か所という話があり、これはいわゆる18歳までの子ども達が松戸に残っていくのに、非常に重要な位置を占める施設であると考えている。この施設の中身が、建築計画の段階で子どもの専門家の意見を聞かないまま決められてしまい、結果、子どもが利用する施設にふさわしくない部分や足りていない部分があり、担当課が非常に苦勞されているようである。今後、同じような施設を検討する際に、計画や推進について、子ども部がきっちりと関っていけるようにしてほしい。松戸市の施設づくりではそのあたりに弱点があると感じている。今後、子ども・子育て支援の視点を入れた専門的な意見を取り込めるよ

うなシステムを是非構築していただきたい。

(西会長)

事務局の方で現時点での説明をお願いしたい。

(子どもわかもの課長)

今後は、市全体のバランスを考え候補地を決めていきたい。公共施設の再編等に併せて、子ども達が楽しめるような居場所を早く見つけて、先生にご指導いただきながら進めていきたい。

(神谷委員)

(子どもわかもの課が関与した) 子どもフォーラムで、「こういった児童館がほしい」という子ども達の意見をまとめている。これが実現されないと、結果として、子ども達は松戸にいても(要望が受け入れられず)意味がないと、転出してしまうことにつながるのではないか。

(西会長)

その他質疑応答をお願いしたい。

(石田委員)

待機児童が0になったということで喜ばしい。おやこ DE 広場でも昨年とは違い「保育園が決まった」「松戸市は頑張っている」との意見をよく耳にした。子ども・子育て支援新制度では就労以外の方でも保育が必要との認定対象とされる。おやこ DE 広場の一時預かりでは、パートや精神疾患を理由とした利用が多くなっているが、その方達は一時預かりの最大利用時間4時間のみでは時間的に足りない。今後そのあたりもご理解いただきたい。

(西会長)

今の発言は意見として受け止める。

(佐藤委員)

保育園の整備について、ここ数年、急ピッチで保育園ができています。入所できるだけでなく、保育内容に特徴のある認可保育園も増えてきており、保護者も選ぶ楽しみがある。それについて周辺パパママから「松戸市はすごい」という意見が挙がっており、この場でお伝えしたかった。

保育士は保育園で子どものためにすごく頑張ってくれているが、その保育士がその

園を辞めずに雇用を継続してくれるのかという心配の声がこの時期になると出ている。保育士は、金銭面や労働面の向上だけではなく、子どもの為にこんなに頑張っているということを市民の方に見てもらえる場をつくって欲しい。保育士のモチベーションを上げるような場があれば、保育士も定着するし、これから保育士になろうとしている方も松戸で働きたいと思うのではないかと考えている。例えば、毎年行われている子ども・子育てフェスティバルでは、製作あそびが楽しめる保育園のブースがあるが、そこで普段子どもと接して頑張っている保育士の姿を保護者にお伝えできれば、お互いに理解が深まるのではと考えている。意見ではあるが、ぜひ反映していただきたい。

(西会長)

事務局の方で、何か意見はあるか。

(幼児保育課長)

松戸市の特色ある保育が周知されていることについては、利用支援コンシェルジェが、今まで担当者では紹介しきれなかった園の特色や見学日程など、保護者のニーズに合わせた説明をしていることも理由としてある。保育士確保については、基本的には国の補助メニューに準じた形でやっている。保育士の負担軽減は、保育支援者設置補助金を活用し、保育支援者が保育以外の部分を手伝い、保育者が保育に集中できる環境をつくっていききたい。また保育士のモチベーションについては、保育士定着支援業務にて、継続に表彰し保育士のモチベーションを上げ、定着を図っていききたい。保育士資格取得支援業務については、小規模保育施設などで働いている保育士資格を持っていない方が、働きながら保育士資格を取得できる支援を考えている。また3歳の壁というのが都内でも問題になっている。松戸市では小規模保育施設の拡充と並行して、幼稚園での預かり保育を整備し、預かり保育の時間を延長したり、保育料について保育園で預かる場合と幼稚園で預かる場合の差額を補助したりすることで、3歳児の時点で、幼稚園と保育園の両者を保護者が選択できる仕組みをとりたいと考えている。平成28年度は、この幼稚園での預かり保育の拡充を重点的にやっていきたい。

(西会長)

保育士の負担軽減と様々な施策と、それ以外に、保育士の業務のアピールということも含まれていたかと思うので、今後検討いただきたい。

(神谷委員)

資料1の中で、子どもの貧困対策推進事業というのがあり、時代を先取りして松戸

市がいい形で対策事業を挙げて頂いていると感じた。教育長と話したときも、子どもの貧困を課題として挙げられていた。既に松戸市の NPO でも、子どもの居場所づくりをしており、食事の提供も行っている。資料 1 では包括的な内容が書かれているだけで、具体的な施策としては書かれていないが、そういう子ども達が集まれるような居場所についても検討する考えがあるのかをお伺いしたい。これは重要な課題であると思う。松戸市は海外などからきている家族もおおり、多くの方は文化も生活も全く違い、夜型の生活が中心になっている家庭も多いと伺っている。具体的な施策を伺いたい。

(西会長)

事務局から意見をお願いしたい。

(子ども部参事監)

子どもの貧困対策を庁内横断的に取り組むため、子どもの未来応援検討チームを設置した。チームには、子ども部、教育委員会、生活支援課、いろいろな部署が入っており、まず各部署の事業として、どのようなものが貧困対策に資するかという検討を積み重ね、その結果、具体的な施策として成果が出てくると考えている。具体的に指摘があった居場所づくりは、松戸市では NPO などが独自に進められている。都内でもそうだが、行政よりも先に市民活動の中で取り組まれている。今後松戸市としてどういった支援ができるのか、相談しながら進めていきたい。

(神谷委員)

新しいことに取り組むことに期待感がある。頑張ってもらいたい。

(西会長)

子どもの貧困対策推進事業について、横断的な組織で形成する子どもの未来応援検討チームの取組みの中で、市民や NPO から意見を聞いたり吸い上げたりする機会はあるのか。

(子ども部参事監)

現在は、松戸市でやっている事業を、子どもの貧困対策というところからスポットライトを当て、何ができているのかを整理しているところである。今後大きな方針や計画を作っていく際は、この場にいらっしゃる子育て支援に携わってくださっている皆様がプレイヤーとなるため、皆さんの意見を聞きながら進めていきたい。

(2) 松戸市子ども総合計画 アンケート調査について

(西会長)

議題の(2)松戸市子ども総合計画 アンケート調査について、説明をお願いしたい。

(事務局)

資料3をもとに説明。

(西会長)

質疑応答をお願いしたい。

特に意見がないようなので、アンケート調査について進めていただくことでよろしいか。実質的な調査になるように、また多くの回答が得られるように、設問項目や事業説明はわかりやすく記載してもらいたい。次の議案に進む。

(3) 利用定員について

(西会長)

議題(3)利用定員について、説明をお願いしたい。

(幼児保育課)

資料4-1～資料4-3をもとに説明。

(西会長)

質疑応答をお願いしたい。

(子ども部参事監)

補足として、冒頭、子ども部長から待機児童0の報告があった。小規模保育施設の増設や認可保育所の整備も重要ではあるが、幼稚園で3歳児の受け入れをしっかりとやっていたら、それがセットで松戸市の待機児童0が実現できている。松戸市が大幅に定員を拡充しているのが0～2歳児で、母親の育児休暇が明ける際に預けられる場所がないというのは、国も松戸市も同じ状況である。この0～2歳児が成長していけば、3～5歳児になる。市長や子ども部長の方針として、3歳になった時に、幼稚園と保育園が選択できるような体制をつくっていく。幼稚園と保育園が一緒になって、地域の子どもを支えている。鈴木委員が中心となり、幼稚園での受け入れについて協力していただいているので、お礼を申し上げたい。

(鈴木委員)

共働き世帯が増え、幼稚園でも協力できることということで、預かり保育を協力し

ていき、その際の人を雇うなどの部分については市長部局と相談していた。保育士不足といわれているが、幼稚園教諭も待遇がいいわけではないが、地域で連携し協力していきたい。

また補足ではあるが、保護者の方と接する機会が多い中で、児童館についてはずっと要望され続けている。雨の時も含め子どもが遊べる居場所がない。他市ではフードコートなどに子どもが遊べる施設があったりするように、そういう場所はどこかに必要で、場所の選定は大変だと思うが、確保は大切だと思う。

(西会長)

質疑応答をお願いしたい。

特に意見がないようなので、審議事項としての利用定員は確認できたということでしょうか。その他何かご意見はあるか。

(石井委員)

子ども部長が発言した保育士確保等の補助について、何があるかを教えていただきたい。保育士の過重労働は従来から問題として挙がっており、保育士が休みを取れるように環境を整えてあげたい。また保育士がやめていく現状については、労働条件の問題もあるが、給料の問題も大きい。さらに国が運営費として補助している給食費があるが、松戸市における給食代補助費の改善についても要望する。

(西会長)

今の発言について、事務局から何か補足はあるか。給食費その他の審議の場ではないので、意見として捕らえている。

(幼児保育課長)

保育士確保の補助金の詳しい中身については、議会の予算が確定したので、4月上旬に細かい説明をしていきたい。

保育士の仕事の中身について、公立等の現場を回っていると、保育士が高い志で仕事をしていることに感銘を受ける。昔に比べ、発達障害の子どもが多かったり、医療行為が必要な子どもが増えていたり、保護者対応に時間が取られたり、事務量が増えていたり、近隣からの駐車や騒音のクレームが増えていたり、感染症の問題があったりなど、新しい問題が起きている。保育士の高い志のお陰で、幼児保育課にはクレームがあまりこない。給食費については、松戸市保育園協会でもご意見をいただいているので、その場で意見をしていきたい。

(文入委員)

子ども部長から待機児童 0 の話があったが、国基準では 0 であるが、実質待機児童については、0～2 歳児では 109 人、3～5 歳では 34 人という数字がでていいる。保護者の生活様式や就労状況などが多様化しているが、実質待機児童の理由を精査しているのか。

(西会長)

実質待機児童についての意見をお願いしたい。

(幼児保育課長)

実質待機児童の 143 人については、希望園を 1 園などに限定する方が 64 人、求職中であることが確認できない方が 54 人、希望園に入所できず希望園以外をご案内した所、育児休業を延長する等の理由の方が 25 人であり、緊急度が高い方ではない。就労中等の方はすべて入園している。

(天田委員)

子ども部長からの話は、松戸市に住みたくなる魅力的な話であった。一方、子どもが 4～5 人いると、保育料と放課後児童クラブ費用だけで 10 万を超えてしまう。引き続き、多子世帯に対する保育料や放課後児童クラブ費用の低額化や補助を検討いたければ、若い世代が増えると思う。

また学校教育では、国での教育改革が大詰めになり、小中一貫教育ができる義務教育学校設立などの動きがある。松戸市では幼稚園と小学校の連携を進めているという話があった。小学校から中学校でも中 1 ギャップの問題があるが、義務教育学校の設立など目玉になる動きがあるのか、お伺いしたい。

(西会長)

事務局から意見をお願いしたい。

(子ども部長)

保育料については、従来、上の子が保育園にいないと、第 3 子の保育料無償化にはならなかったが、今年度、上の子が小学校 3 年生まで、第 3 子の保育料無償化を拡大した。多子世帯へは経済的支援をもっとしていきたい。

(指導課)

松戸市では、小中一貫校や義務教育学校などの設立は今のところ考えていないが、言語活用科などをはじめ、小中一貫教育という形で進めている。

(石井委員)

今年は保育園の入園の決定時期の通知が早くなりよい方向づけであった。

(西会長)

今の発言は意見として受け止める。

3 その他

○次回の会議の開催

(事務局)

来年度の平成 28 年 10 月頃の開催を予定している。詳細は別途ご案内する。

○成瀬委員ご退職に伴う挨拶

(成瀬委員)

この会議に参加し、学校が地域や家庭へ果たす役割は大きいと痛感した。最近、幼・小・保の連携を図る会議が3月に行われ、小学校間でも、幼・保の間でも温度差があることが改めてわかった。子どもを受け入れる学校は、器を広げ、質の向上を図っていかなければと感じた。連携が大事な質の向上につながると思う。先ほど小学校と中学校との連携について意見が出たが、器的な連携はないが、教育、部活動、音楽、教師でも、質の高い連携が図れている。英語教育は400時間英語という事で小学校からのカリキュラムの展開をしている。今後は、そういった部分に目を向けて松戸市の取組みをみていただければと思う。

(西会長)

連携というキーワードがあったが、この場はまさに連携のきっかけづくりの場でもある。質の高い教育・保育の提供、地域の子育て支援にむけて、関係部署で連携をしていきたい。

(西会長)

本日の議事は全て終了した。